目次

新装新版まえがき……9
はじめに……13
一　問題の提起と研究目的……13
二　用語と資料、構成……21

第一章　大韓民国樹立前後の賠償問題

第一節　八・一五直後の民間補償要求と南朝鮮過渡政府の対日賠償要求……31
一　民間補償要求……31
㈠　労働者の要求……31
㈡　戦争被害者団体の要求……34
㈢　「戦災同胞」の要求……36
二　南朝鮮過渡政府の対日賠償要求……38
㈠　米軍政下における対日賠償問題……38
㈡　対日賠償要求の原型……41

第二節　李承晩政権の対日賠償要求……49
一　『対日賠償要求調書』の作成……49
二　『対日賠償要求調書』の内容と意義……53
㈠　『調書』の内容……53
㈡　『調書』の意義……60
三　アメリカと日本の対応……61
㈠　アメリカの対応――植民地問題の排除……61
㈡　日本政府の「朝鮮近代化貢献」論……65
㈢　引揚日本人の「私有財産補償要求運動」……68

第二章　一九五〇年代　李承晩政権下の請求権交渉

第一節　第一次交渉再考……73
一　サンフランシスコ講和会議参加の挫折と日韓交渉開催……73
二　基本条約問題をめぐる論議……84
三　請求権問題をめぐる論議……90
四　第一次交渉の決裂と日韓両国内の反応……99

第二節　第二次交渉から第四次交渉まで……104
一　第三次交渉と「久保田発言」……104
二　第三次交渉以後の冷戦論理と「防日」ナショナリズム……115
三　第四次交渉と在日朝鮮人の「北送」問題……125

第三章　一九六〇年代　張勉政権下の請求権交渉

第一節　張勉政権の「韓日経済協調」論……135
一　「韓日経済協調」論と請求権問題――妥協への道筋……135
二　韓国内の世論――批判と支持の衝突……145
三　日本の対応――「経済協力」方式の提示……152

第二節　第五次交渉での請求権論議……157
一　「米国務省覚書」をめぐる論争……157
二　「請求権八項目」の討議――法律論と事実関係……160
三　個人請求権をめぐる論争……168

第四章　一九六〇年代　朴正熙政権下の請求権交渉

第一節　朴正熙政権の「韓日経済協力」論……177
第二節　第六次交渉での請求権論議――法律理論・事実関係論争……184
一　一般請求権小委員会……185
二　第一次政治会談（小坂・崔外相会談）……197
第三節　請求権交渉の妥結――「経済協力」方式の確定……203
一　第二次政治会談予備折衝……203
二　第二次政治会談（大平・金会談）……209
三　「経済協力」論議……218
第四節　アメリカの「不干渉政策」の変化……224
第五節　日韓条約の締結と批准……235

第五章　日韓条約をめぐる韓国内の葛藤

第一節　朴正熙政権の日韓条約締結の論理……253
一　韓国側首席代表の論理――裵義煥と金東祚……253
二　韓国政治家の論理――元容奭・金溶植・金鍾泌……259
第二節　韓国での日韓条約反対運動の論理……263
一　日韓条約批判の思想的前提――「日帝近代化論」批判と「新植民主義」批判……264
二　日韓条約批判……269
(一)　基本条約……269
(二)　財産請求権・経済協力協定……277
三　日韓条約反対運動の対案――「韓国民族主義」・脱冷戦・新たな日韓関係……287
(一)　「韓国民族主義」――民衆・世界・自立経済・統一……287
(二)　脱冷戦――アメリカの日韓交渉介入批判・韓国軍のベトナム派兵批判……292
(三)　新たな日韓関係……294

第三節　日韓交渉下における植民地支配・戦争被害者の「静かな抵抗」、「沈黙」、「忘却」……300
一　財産を失った人々……302
二　在韓原爆被害者……304
三　「徴用」・「徴兵」された被害者と遺族……310
四　対日民間補償法の制定……318
五　「静かな抵抗」、「沈黙」、「忘却」……321
おわりに……325
一　要約……325
二　日韓請求権交渉と日朝交渉……337
註……347
あとがき……399
参考文献……403
人名索引

装幀・ナグネ